

編集後記

26歳にもなると、高校時代の友達には、結婚している人、子持な奴、独身でバリバリ働いている人、フリーター、ニート、海外在住。ほんと色々います。やっぱり人の進む道はそれぞれだな。などと思う今日この頃です。でも、まだまだ26ですから。
(加藤)

以前は3月といえば卒業式でしたが、大人になった今ではJリーグ開幕というイメージです。高校時代にレッズにハマリ、同級生の友人とは今でも観戦に行ったりしています。卒業すると疎遠になりがちですが、こういう腐れ縁は大切にして下さいね。
(荻原)

2月早々にインフルエンザにかかってしまいました(汗)いやあ、苦しかった～。朝起きたら、のど痛い、頭痛い、熱がある…という感じで、ボロボロ。あれ？前日元気だったよなあみたいな(笑)みなさん！特に、受験生のみなさん！！予防接種は大事です。はいっ。
(荻藤)

3月にクラス会があるとの連絡がありました。何年ぶり？今もみんな埼玉にいるのかな？いったい何人に連絡がつくんだろう…。皆さん、卒業後はそれぞれの道で頑張りがちながら、時々伊奈学を思い出して、同窓会への住所変更の連絡も忘れずに♪
(金田)

STAFF

General Producer	金子桂一	3rd	(同窓会会長)
Chief Editor	荻原正行	12th	
Art Director	越智浩一	11th	
Editor	金田明子	6th	
	齋藤彩奈	18th	
Photographer	佐藤雄亮	16th	
Producer	加藤桂梧	12th	(編集委員長)

発行 伊奈学園同窓会

編集 会報誌編集委員会

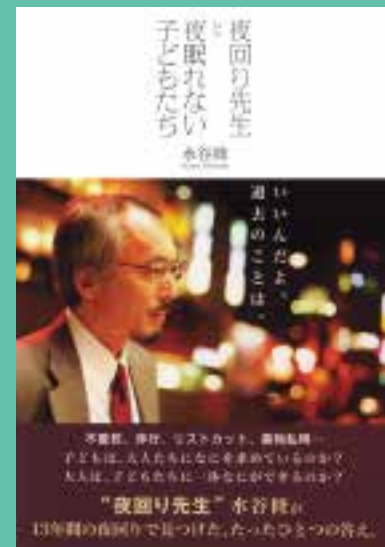
印刷 株式会社 新晃社

お問い合わせ (Mail) ina-doso@inagakuen.on.arena.ne.jp

(Web) http://www.inagakuen.on.arena.ne.jp/

© Inagakuen Dousoukai 2006

掲載されている記事・写真等一切の権利は伊奈学園同窓会または原著作者に帰属します。



夜回り先生と
夜眠れない子どもたち

水谷修

定価 (本体1400円+税)
発行・発売 /
サンクチュアリ出版

あなたの見つからなかったものが見つかる

最近の若者を嘆く大人が、世の中に増えている。「最近の若者は…」と言って、非難している人も多いはずだ。では、最近の若者とは何だろうか。街でたむろし、犯罪に手を染める。髪の毛を染め、ピアスをあける。なぜ、彼らはそうするのだろうか。

世の中の偏見で縛られている若者の前に現れた一人の救世主。夜回り先生水谷修。

13年前に夜間高校の教員になって以来、「夜回り」と呼ばれる深夜パトロールを続けてきた彼は、今、新たな悩みを抱えた子どもたちと向き合い始めようとしていた。

「先生助けて…」この多くの子どもたちが救いを求め、彼の元には、実に2万3千通以上ものメールが届き、電話が鳴り止むことはない。

「夜眠れない子どもたち」に、彼はありのままの自分でごつかつていく——

「私には、君の死を止めることはできません。
それは、わかっています。
でも、君には生きていてほしい。

君の明日には、たくさんの幸せが待っています。
そして、たくさんの心温かい人たちが待っています。

よかったら、水谷を信じてみませんか」

水谷は、スゴイことをしているわけではない。ただ、子どもたちを信じ、そして、彼らの傍にいる。

今、死を考えているあなた。ドラッグやOD(オーパードーズ、処方薬等の過剰摂取)、リストカットから抜けられないあなた。

そして、悩みを抱え生きている多くの人たちへ——。
この本を読んでみてはどうだろうか。

——あなたの見つからなかったものが見つかる。

Review

「一番楽しいのは僕だぜ」 という気持ちで——食堂貴明

パントマイムとの出会い

「高校2年生の時だったかな。上尾でアガリエヒロムさんという方がなさったパントマイムのワークショップに参加したんです。

その頃の僕は、高校の演劇部で『愚者には見えないラマンチャの王様の裸』という芝居で道化師の役をやっていました。道化師とパントマイムは違うんですけど、

今までそういうサーカス的なものを見たことがなかったから、何かの足しになればと思って。演技の足しになったかどうかはあまり覚えてないですけど、でもそこで、パントマイムって面白いな。これはもうちょっとやってみたいなと思いました」

プロの道

「お金をもらったからプロだというのは、お金を渡す側が感じることであって、お金

をもらっていても「いや、自分はアマチュアですから」というものもある。自分の中のことですよね。自分の信念というものが、自分をプロと思うか思わないか。

プロになろうと思っても、こうすればプロになれるという基準はないと思うんです。プロになるというのは、自分でプロだつて言え、その時点でプロになるので簡単です。ただ、この世界はプロを続けていくのが大変なんです。

文＝加藤桂悟(12th)

text by Keigo Kato

写真＝佐藤雄亮(16th)

photo by Yuusuke Sato

構成＝荻原正行(12th)

design by Masayuki Ogiwara



僕が恵まれていたのは、続けていくという段階で学生だったこと。自分自身(自分の将来)をどういう方向でやっていくのかというのを、ゆつくり考えることができたんです」

自分を試す

「就職活動の時期になると、社会人の初任給くらいの収入はありまして、じゃあ進路を。どうしようかなって思った時に、何かそこで就職活動をして就職したら、今まで自分がやってきたことが消えてしまうんじゃないかと思いました。

僕はプロだと言いつつも、結局は学生だった。学生という身分がなくなると、そっち一本になった時に、どこまで自分を伸ばすことができるのか。それを試したくなっただけです」

パフォーマンスタとは

「理想の自分になれるところ。楽しいことしか思い浮かびませんね——。

ただ、それだけでなく、闘いでもあると思います。生きるための闘い。自分の生業としての闘いでもあるから、ギリギリしたものが必要である部分もあるし、自分が楽しくて楽しくてしょうがなくなつてや



たくさん子ども達に囲まれる「じっきい」(写真・TOKYO-BAYらぼ一と)

っている部分もある。

でも、「楽しませる」とかは考えていない。「楽しませる」とか「喜ばせる」とか、上からの言い方で押し付けるものではないと思うんです。そういうテンションでやっている人もいます。楽しませて、喜ばせてなんぼだ」と。もちろん、それも大事だけれど、僕の中で一つの言い方をすれば、「一緒に楽しむ」ということです。

例えば、僕がパフォーマンスタで1000人に囲まれてやっていったとしても、「一番楽しいのは僕だぜ」という気持ちで常にやっています。楽しそうにやっていないパフォーマンスタは、見ても楽しくない。やっぱり、やっている本人が楽しいから、楽しいというのが伝わってくる。だから、自分はどうなんかに逆境でも、何か絶対に楽しい事があるはずだ」という、それを常に探しています。人が集まらないそんな状況でも楽しもうと思えば楽しめるはずだ」と

確かな夢を

「パフォーマンスタのコンテストで優勝しようとか、世界一になろうとか。そういう具体的な目標はないですけど、パフォーマンスタの歴史に、何らかの形で『じっきい』という名が刻めればと思っています。

それがパントマイマーであるか、クラウンであるか、ひょっとしたら、これからものすごい天才的なジャグラーになるかもしれないし。だからやっていくうちにどこに刻むかは分からないですけど、でも、今は自分が一生懸命にやっていたら、絶対に刻めるだろうと思っています。

刻めるはずだ」という信念ですかね。「刻みたい」ではないんです。自分がやっていることを続けて成長していけば、きっと「刻めるはずだ」と。それを目指してやっていくということなんです」

★ Profile ★

じきどう・たかあき 26歳 98年卒(12期生) 21語学系(英語)……東京都公認ヘブンアーティスト。高校時代は演劇部に在籍し、市民劇団にて演劇活動も行う。立教大学コミュニティ福祉学部卒。大学在学中、吉田明美パントマイムスクールにて、マイムの基礎を学び、パフォーマー「クラウンじっきい」としてイベント出演やストリートパフォーマンスを行う。その後、独立しフリーとして活躍する一方で、非営利でのボランティアパフォーマンスを趣旨とする団体「からふる・ぼけっと」を設立。現在も、数々のイベントや大会出演のほか、パントマイム教室、イベントプロデュースなど、精力的な活動をしている。OFFICIAL HP … <http://www.colorful-pocket.com/jicky/>

同窓会より

Information

高校力にだまされるな

伊奈学園、卒業おめでとう。青春の3年の年月を懸命に駆け抜け、今日の日を迎えたことと思います。同窓の仲間として心から祝福します。

みなさん、「高校力」という言葉を聞いたことがありますか。昨今、大学や企業でなく、どの高校で学んだかということがにわかに注目されるようになっていきます。メディアが、新しい切り口に飛びついた面は多分にありますが、あながちうそでもありません。

ただ、高校力で問われるのは往々にして「有名大学に×人入学」「有名企業の幹部は○×高卒業生」などという、旧来の尺度でしか測れない薄っぺらなものです。

創立20年をすぎても、「いぶし銀」という言葉が似合わない伊奈学園に学んだからこそ、別の尺度や価値観をあわせ持つて世の中にデビューしましょう。高校時代の知識や体験を延長したところに、人

生で応用のきく知恵と経験はあるはずです。

粹な趣味を持つことや、とことん仕事や家庭を極めることでもいいでしょう。私はそれを個人のブランド力と呼んでいます。

そして、内に閉じることなく、それを内外に人の輪をつなげてください。結果として、それが伊奈学園の高校力に新たな価値を付け加えるはずです。

同窓会は先輩や後輩の活躍をさまざまに紹介し、人生のヒントや新たな刺激を提供したいと考えています。過去に閉じているのではなく、未来や個人の可能性という個性に、どんどんつながるネットワークが目標です。

いつの日か、あなたのブランドとブランドを語ってくれませんか。伊奈学園に名前負けない未来のあなたに期待しています。

3期生 金子桂一 朝日新聞社会部記者

伊奈学園同窓会HPへアクセス

伊奈学園同窓会ではインターネット上にウェブサイトを開設しています。同窓会からの連絡や掲示板、住所等の登録／変更フォーム、卒業生のウェブページへのリンクがあります。同窓会へのメールもこちらで受け付けています。
アドレス <http://inagakuen.onarena.ne.jp/>

個人情報の取り扱いについて

同窓会では会員の連絡先（住所、電話番号、電子メールアドレス）などの情報を名簿にまとめて保管しています。これら情報は個人情報保護の観点から一般公開されず、同窓会活動にのみ利用されます。

〈名簿情報の利用例〉

・同窓会誌の送付：登録された住所に同窓会誌を送付します。

・クラス会の呼びかけ：HR代表（HR理事）に対して該当HRの会員の連絡先を開示します。（準備中）

住所の変更などはお早めにお知らせ下さい

引越し、転勤などで連絡先が変わった場合はお早めに同窓会までお知らせ下さい。また、今後同窓会では電子メールによる連絡を活用して参りますので、特に電子メールアドレス変更の際には同窓会にもお知らせ下さい。

電子メールによる連絡：クラス会開催の呼びかけなど、電子メールを用いて行います。（準備中）

名簿に登録される情報は「非公開」とすることもできます。同窓会ウェブサイトの「住所等の登録／変更」アドレス <http://inagakuen.onarena.ne.jp/formone/formmail.html> から登録してください。非公開の場合、個人情報保護はHR理事に対しても公開されません。詳しくは同窓会ウェブサイトの同ページにある「登録情報の扱いについて」をご覧ください。

